

## 第684回番組審議会報告

2024年1月9日開催

### ■出席委員

佐藤卓己委員長、栗栖義臣副委員長、川瀬慈委員、木戸哲委員、  
小島幸保委員、津村記久子委員、増山実委員、安田真奈委員

### ■毎日放送出席者

虫明社長、高山常務、酒井取締役、北野取締役、中野取締役、  
奥田報道情報局長、森岡番組センターエキスパート、井口スポーツ局長、  
木村スポーツ部副部長、柴田コンプライアンス局長、  
中西番組審議会事務局長

### ◆審議事項

テレビ番組「よんチャンTV」5時間ぶち抜き！祝・阪神優勝  
能見&糸井&鳥谷&掛布超豪華リレーSP  
(2023年9月15日(金)13:55~19:00放送)

#### 【概要】

9月14日に阪神タイガースが18年ぶりにリーグ優勝を果たし、関西は歓喜の渦に包まれた。「よんチャンTV」ではどこよりも詳しく、熱く伝えるために翌日15日に枠大の特別編成を実施。優勝当日の夜にスポーツ局が主体となって放送したリーグ優勝特番と連携しながら、報道情報局、スポーツ局が一体となって5時間特番を放送した。

- ① 阪神ファンから根強い人気のある解説者のリレーを実施（能見篤史⇒糸井嘉男⇒鳥谷敬⇒掛布雅之）、  
4人の解説者が阪神優勝の要因をそれぞれの目線で語る。
- ② 弊社「せやねん」から生まれた岡田監督の好物「パインアメ」企画を社内横断企画に発展させて、「よんチャンTV」で紹介。「パインアメ」はSNSなどでも取り上げられ一大ムーブメントを引き起こした。

#### 【各委員の主な意見は次の通り】

- \* 阪神がなぜ強くなったのかという理由について、解説者4人と河田アナのやりとりがすごくわかりやすかった。
- \* 全体的にすごくポジティブな番組だった。地上波の放送局が落ち着いた放送

をするのはすごく大事なことだと思う。

- \* 18年前に阪神が優勝した時の居酒屋の女将さんに再び取材したVTRが秀逸だった。タイガース優勝という切り口で人間の18年という歳月を見事に切り取っていて、改めて地上波の底力を見た思いがした。
- \* 岡田監督専用のパインアメを作る企画は、受け取った時の反応を含めて、とてもよい企画だったと思う。
- \* 阪神が弱かった時代の振り返りがあればもう少し深みが出たのではないか。関西にはほかの地域から来た人もたくさんいるので、阪神の魅力や人気ぶりの理由を説明してもよかった。
- \* 道頓堀の飛び込みはテレビカメラが煽ってはいけないという意識はあったと思うが、放送を見るとそういう意識が伝わってこなかったという印象だ。カメラの存在が飛び込みに加担しているという意識はあるのだろうか。
- \* 道頓堀の飛び込みは携帯の待ち受け画面にしたり、自慢したりすることが目的かもしれないので映すべきではない。むしろ飛び込んだ後に警察から説諭されている場面などを映すほうが効果的ではないか。ハロウィンの渋谷も、泥酔して路上に横になっている姿を映すことによって、注意喚起になっている。
- \* ファンと名乗る人たちと本当のファンの人たちは全然違うと思った。道頓堀で飛び込む人たちはファンと名乗る人たちで、本当のファンではない。「阪神ファンです」と言う自認のよさと悪さが入りまじった番組だと思った。
- \* タイガースに関する企画は、いつも奇抜な格好をしたおばちゃんが出てきて既視感があるのでもう少し独自の切り口があってもいいと思う。
- \* 優勝のビールかけの前に岡田監督が「ミエちゃん、今日主役ちゃうよ。成績に因んだ暴れ方してください」と言ったのがとても面白かったが、岡田監督が言う前に字幕スーパーで全部出てしまったのはせっかくのシーンを字幕スーパーが潰してしまっていると感じた。
- \* スポーツのルールに詳しくない人も多いので基本的なルールをまめに番組の中で紹介すればさらにいろいろなスポーツに関心を持つ人が増えるのではないか。
- \* 阪神の試合中継は視聴率が高いので、関西における阪神ファンの比率が高いと思いがちだが、テレビを視聴する層が阪神ファンなのであって、テレビから離れている若い世代や忙しい勤労者の世代は、阪神ファンではない可能性はないだろうか。

#### 【番組制作者側の説明、質問への回答】

- \* 道頓堀の飛び込みの件は、煽らないように俯瞰から撮影するなど常に議論し

ているが、プロセスよりも結果的に見た人がどう感じたかということに尽きる  
るので、今回いただいた意見を参考にさらに議論したい。

\*スーパーの出し方については、時間が短くてそうなったかもしれないが引き  
続き細やかな編集を引き続き心がけていく。

\*野球ファンの高齢化はとても実感している。野球はルールが難しく小学生も  
サッカーなどに流れるためなかなか先が厳しい状況にある。まさにテレビの  
視聴者の高齢化とシンクロしているので、ご指摘は当たっていると思う。

以 上